

特 定 非 営 利 活 動 法 人 ト レ ス
(ソ ー シ ャ ル ・ サ ポ ー ト ・ ス ク ー ル)

わだち通信

VOL.40 2016/04/01

自立援助ホーム「わだちの家」
和歌山市善明寺13

TEL & FAX : 073-419-0888

自立援助ホーム「つぼみの家」
和歌山市狐島615-185

TEL & FAX : 073-496-4364



わだちの家 施設長
川口充紀

陽春の候、ますます御
健勝のこととお慶び申し
上げます。

平素より子ども達へ
ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、今年は4年に一度の閏年でした。実は
この表現は誤りで、現在私たちが使っているグ
レゴリオ暦の場合、正確には400年に97回
閏年が入るそうです。4年に一度でないときが
3度あるということになります。

そういえば、他の月は30日か31日なのに、
2月だけが28日しかないのも不思議ですね。

これには次のような理由があります。

現在の暦の元をつくった古代ローマ人は農耕
民族でした。農耕民にとって、いつ種まきをす
るかは重要な関心事であり、春分の日属する
月（現在の3月）が一年の始まりの月となりま
した。このころの1年は10か月（304日）
しかなく、農業に適さない冬の期間には月日は
割り当てられていませんでした。61日も暦の
ない日があったわけですから、さすがに不便だ
ったのでしょう。やがて、余った日数を2分割
して1月と2月を置いたのですが、あくまで最
初の月は3月でしたから、2月が1年で最後の
月となりました。1年365日を31日と30
日で割り振っていくと最後の月だけ日が足りな
くなり2月だけが28日となったのです。

その後、1月1日が一年の起点とされてから
も修正されることなく、今となっては多くの国
で採用されているというわけです。

もちろん、他の暦を使っている国もたくさん
あります。イスラム教圏にはヒジュラ暦があり
ますし、ユダヤ暦やエチオピア暦、ミャンマー
暦など宗教や地理的、文化的な違いにより多彩

な暦が世界には存在しています。詳しくは触れ
ませんが、年初日の考え方も様々です。

ところで、日本では、4月も1年のスタート
として大切にしています。私たちのホームでも、
先月に入退居が重なり、4月から新社会人とな
る子どもたちも何人か迎えました。

本来であれば、まだまだ子ども期を満喫して
いてもよいはずの年齢で、社会の荒波に漕ぎ出
していかねばならないのは残念なことです、
いつかは迎えることになる自立への一歩をしっ
かりと見守ってあげたいものです。

古代ローマの時代まで遡らずとも、春が種ま
きの季節であることは自明のことですが、私た
ちの関わる子どもたちの心にも、明日へと続く
希望の種を植えることが出来ればよいのです。

つぼみの家 職員
阿部志帆

暖かい日差しとともに春の匂いがする季節と
なってきましたね。つぼみの家には優しい色合
いの桜の飾りがそこかしこに飾られています。

冬から春にかけてはいろんなイベントごとが
ありました。ハロウィン、クリスマス、お正月
に節分、バレンタイン、そしてひな祭り。つぼ
みの家もイベント時には女子ホームらしくリビ
ングを華やかに飾りつけ、食卓にはその日にち
なんだ食事が並びます。職員と子どもたちでと
もに飾りつけ、食事やお菓子を作り味見しあう。
もちろん友人や恋人と楽しい思い出を作る子ど
ももいます。

昔から日本の行事の日は「ハレの日」と言い
表し、非日常として、日常とはっきり区別され
ていたそうです。それに対して日常は「ケ」と
呼ばれ、日々を送るうちに物事が上手くいかな
くなったり頑張るパワーが衰えてしまうことを
「ケ」が枯れる「ケガレ」と言われていました。
「ケガレ」は「ハレ」によって払われ「ケ」が

復活する。たまの非日常が単調な日々のスパイスとなり、また日常を頑張れるというわけです。

日本古来の行事に留まらず、一つ一つを堅苦しく捉えず、たくさんの楽しい「ハレの日」をつぼみの生活に盛り込んでいくことで、子どもたちの日常の「ケ」が枯れないように、日々の仕事や生活が楽しく元気に過ごせるようなサポートとなればいいと考えながら、次の行事のことを楽しく思いめぐらす今日この頃なのです。

児童養護施設退所者等アフターケア事業
担当職員 田中恵美

アフターケア事業担当の田中です。平成27年度も試行錯誤はあったものの、滞りなく事業を終えることが出来ました。お力添えいただいた関係各位にこの場をお借りして御礼申し上げます。

さて、昨年度は11名の児童が卒園していきました。11名全員が、自宅へ帰るのではなく様々な自立に向けての卒園となり、今後も関係が切れることの無いよう、つながり続けたいと願っています。

また、昨年度は特に退所した児童への関係作りに重きを置き関わらせていただきました。ある程度関係の出来ている子どもへの訪問や、関係の出来ていない子どもへのアプローチと、これもまた試行錯誤しつつ、関わらせていただきました。その訪問の中で、少なくとも子どもたちが口にしてるのが「寂しい」と言う言葉でした。学園にいる間は、いつも必ず誰かが側にいて、それが時には「うざい」とも思っていたのが一変し、孤独を感じている様でした。また、一部の女子の中には、寂しさを紛らわせるためにSNSに依存したり、ずっと誰かと電話で話していたり、男性の下心を知ってか知らずか優しさと感じて、安易に従ってしまうといったことを話す子がいて、不安を感じました。

その子たちには「あなたは大切な存在」であること、「決して一人ではない」ことを伝えましたが、あらためて私の重要な役割の一つである「伝え続けること」、「つながり続けること」の大切さを感じた一年となりました。

今年度も伴走者としての想いを新たに子どもたちと共に歩み続けたいと思っています。

わだちの家に籍数（H28年各月1日現在）

年 齢		15歳	16歳	17歳	18歳	19歳
1月	人数			1	2	
2月	人数			1	1	1
3月	人数			1	1	1

※全員男子です

わが家の子ども達

R太：就労は安定し、貯金も増えていますが、対人関係能力はまだまだ発展途上です。

W太：せっかくの高認検定合格を活用するため、大学進学準備を始めています。

b男：朝の早い仕事なので、布団から出るのに苦闘しながらもなんとか就労継続中。

c男：3月末に新しく入居しました。ただいま求職活動中です。

つぼみの家に籍数（H28年各月1日現在）

年 齢		15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳以上
1月	人数		1		3		
2月	人数		1		3		
3月	人数			1	2	1	

※全員女子です

わが家の子ども達

C子：話し合いのないままに退居し、すでに4か月。元気にはしているようですが。

F子：夜の飲食業に就職し、寮暮らしになるため3月に退居しました。

I子：友人とルームシェアするといって退居しました。

L子：昨年末に入居。求職活動に苦労しましたが、3月によりやく仕事も決まりました。

M子：3月末に入居しました。すぐに仕事も決まり、4月から勤務します。

N子：同じく3月末に入居しました。勤務先も決まっています。

1～3月のわだちの家とつぼみの家

毎月/11 イオン黄色いレシートキャンペーン

1/21 和歌山県児童養護施設協議会の常任委員会に川口が参加。

児童相談所の現況調査（つぼみの家）。

- 1/23 SST (ソーシャル・スキル・トレーニング)
性教育 (男子) を実施。
- 1/24 特非) 子どもセンターるーものシンポジウムに川口、田中職員が参加する。
- 2/02 自立援助ホーム近畿東海ブロックの勉強会・交流会に川口、田中が参加。
- 2/04 和歌山県児童福祉施設連絡協議会の職員研修に川口、田中・阿部職員が参加。
- 2/06 SST (ソーシャル・スキル・トレーニング)
性教育 (女子) を実施。
- 2/20 和歌山県児童養護施設協議会と共催の
～21 SST (ソーシャル・スキル・トレーニング) 実施。
- 2/23 全国自立援助ホーム協議会の緊急勉強会に川口が出席。
- 3/01 わだちの家とつぼみの家の運営について県の指導監査を受けました。
(指摘事項、特になし)

支援者の皆様方へ

自立援助ホーム「わだちの家」へのご寄附・ご支援を賜り、また援助基金にご協力をいただき誠にありがとうございます。

- 1月1日より3月31日までの寄附金
- 1月1日より3月31日までの寄附物品
岡本ご夫妻様、フードバンク和歌山様、匿名希望様
- 1月1日より3月31日までの援助基金
和歌山県更生保護女性会様、前原壮行様
水城会計事務所様、匿名希望様

○援助基金会計報告 (1/1～3/31)

収入の部

援助基金 34,000 円

受取利息 円

支出の部

自立生活・就労・資格取得支援金
0 円

振替手数料 260 円

3月末残高

310,875 円

※原則として、郵便局で受け取る払込金受領票の写しをもって領収書に代えさせていただきます。特に領収書の必要のある方、及び「匿名希望」の方は、その旨を通信欄にその都度お書き込み下さるよう、宜しくお願い申し上げます。

編集後記

3月初めに、わだちの家とつぼみの家の子ども達や職員とUSJに行ってきました。

この年頃の子たちの例にもれず、女子はウキウキとうれしさを隠さず、男子は朝起きるのが面倒だとかいって、うれしくもなさそうにしていたましたが、寝坊もせず起きてきて、現地でもエクスプレスパスをフル活用し、非日常のひとつきを満喫していたようです。斜に構えて、なかなか素直になれないところが可愛くもあり、歯痒くもありました。

とはいえ、存外、子ども達より付き添いの我々大人の方が、羽を伸ばしているように感じられたのは、たぶん気のせいだということにしておきましょう。(笑)

さて、これからも、自立援助ホームの様子はもちろん、本県の子どもたちを取り巻く状況などもこの「わだち通信」でお知らせして、皆様のご支援ご声援を賜り、子どもたちの自立への一助となるよう、なお一層精進いたしたいと思います。今後ともご指導くださいますようお願い申し上げます。

(援助基金のお願い)

わだちの家・つぼみの家では、皆様方にご理解いただき、入居初期の生活が軌道にのるまでのホーム費や資格取得など子どもたちの自立支援に役立てるための援助基金を募っています。ご賛同いただける方は、以下の口座へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

また、すでにご支援いただきました方々に、心からの感謝と御礼を申し上げます。

ゆうちょ銀行

口座記号番号 00920-5-299601

口座名義 自立援助ホームわだちの家

かわぐち

特 定 非 営 利 活 動 法 人 ト レ ス
(ソ ー シ ャ ル ・ サ ポ ー ト ・ ス ク ー ル)

わだち通信

VOL.41 2016/07/01

自立援助ホーム「わだちの家」
和歌山市善明寺13

TEL & FAX : 073-419-0888

自立援助ホーム「つぼみの家」
和歌山市狐島615-185

TEL & FAX : 073-496-4364



わだちの家 施設長
川口充紀

盛夏の候、ますます御健勝
のこととお慶び申し上げます。

平素より子ども達へのご理
解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、これまでも何度かお伝えしたように、
大学時代に中国文化を専攻した関係で、中国史
に興味を持ち、それが転じてローマ帝国やルネ
ッサンス期の西欧などにも関心を持つようにな
りました。そうやって知れば知るほど、私が疑
問に思ふことは、ヒトという種の不条理さです。

たとえば、中国の歴代の王朝においては、太
古の聖王の時代が理想であるとして、昔に書か
れた書物を覚えることが学問だと信じられ、新
しいことを発見することは軽視されがちでした。
過去を学べばこれから起こることもわかるとい
いながら、中国においては、王朝が勃興し統治
機構が腐敗し農民反乱がおき滅亡するというお
決まりのサイクルを繰り返し、四千年経った今
に至っています。

中世の西欧でも、キリスト教会が押し付ける
厳格な戒律によって、善良な人々でも何らかの
罪を背負い地獄に落ちると恐怖をかきたてさせ、
あげくに、異教徒を殺せば一切の罪は許される
といって十字軍が起こります。そのころから永
い歳月を経ても、信じる神が違うといつて人は
殺し合いを止めません。

人はどうしてこんなバカげたことをするの
か？ その不条理さに慄然とします。

私たちは、ばらばらで、言葉というコミュニ
ケーション手段は不完全です。それぞれが抱え
る思いは決して、思うようには伝わらないので
す。相手が何を考えているかを正確に知ることは
出来ませんし、自分の思いを相手に正しく伝
えることも、ほぼ不可能です。私たちは虚無の

海に浮かんでいて、生まれた時から切り離され
ているのかもしれませんが。

それでも、人は繋がるすべを模索します。ど
こかにわかりあえる道があると信じて、探し続
けます。きっと人というのはそういう生き物で
もあるのでしょう。

こうしたことを、ホームで暮らす子どもたち
と対するときによく想起します。私の思ってい
ることをいくら言葉にしても伝わらず、虚しさ
だけが残るときは、人とはそういうものだとい
自分を慰め、一方で、それでもどこかに道はある
はずだと、諦めることを戒めます。

真正面から向かい合うことを避けなければ、
たとえその時には通じなくても、いつかどこか
で、伝わることもあるかもしれないのですから。

つぼみの家 職員
上西佑季

つぼみの家とわだちの家の各入居者に対し、
月に一度一対一でじっくりと話をする時間を
つくっていただいています。その話の中で最近の
出来事や今後の目標を聞いたり、時には一緒に
気持ちや考えの整理をしています。生い立ちも
性格も現在の状況もまったく異なる子どもたち
ですが、話し合いの中で「ストレスの発散の仕
方がわからない」と話す子どもが少なくありま
せん。〈じゃあストレスを感じるのはどんなと
き？〉〈反対にストレスを感じないときはどんな
場面？〉と尋ねてもほとんどの子どもが決まっ
て「わからない」と答えます。

自立援助ホームにはずっと施設で育った子ど
もや被虐待児が多く、これまで育つ上で十分な
安心感を得ることができなかった子どもも少な
くありません。そのために些細なことでも傷つ
いてしまうことや、いわゆる一般家庭で育った
子どもより安心感を得難いケースも多いです。
そもそもが安心感とは何かわからない場合もあ

るかもしれません。しかしストレスになること・ならないことがわからないというのは、自分が何に対して安心できるのか、また自分は何が好きで何が嫌いかはっきりとわからないと言っているようでもあります。つぼみの家とわだちの家に住む多くの子どもが自分のことをわからないまま不安定な心持ちをどこかに抱えているように思えます。月に一度という少ない時間ではありますが、対話のなかでゆっくりとでいいので子どもたちの自己理解が推進できればと願います。

わだちの家
職員 菊山麻美

「月に一度、スタッフと話し合いをする」というルールがわだちの家にあります。とても簡単なルールに思えますが、子どもたちにとって非常に困難で、できれば避けたい項目であるということが、皆様にご理解頂けるでしょうか。

日常会話はもちろんのこと、冗談や、時には暴言(?)も飛び交う毎日。けれども「話し合い」となると、言葉が出てきません。将来のこと、現在抱えてる問題点、話し合わなければならぬことは山積みです。頭の中では、自分なりに解決策を導きだしたりしているのですが、それを言葉にして、自分の考えを人に伝えるということができません。彼らは伝わらなくてもいいとさえ思い、諦めてしまいます。

先日、子どもたちと一緒に笑い番組を見ました。瞬間芸よりも、よく練られたネタや意外なオチのコントの方が彼らの好みようです。彼らの爆笑の中には感嘆も含まれています。芸人がどれほどの時間をかけ、ネタを書き上げたか。まずオチ(結論)を考え、そこに向かって、わかりやすく面白く伝えるために、どれだけの試行錯誤を重ねたことでしょうか。このことから、人に言葉で伝えるということは、決して簡単なことではないのです。しかし同時に、社会に出て行く上で、最も必要なスキルであることも間違いのないです。

彼らが自らの言葉で伝えようとしたとき、それが拙い言葉であったとしても、全力で聞く耳を持ち、彼らの成長を待ちたいと思います。

わだちの家の在籍数(H28年各月1日現在)

年 齢		15歳	16歳	17歳	18歳	19歳
4月	人数			1	1	2
5月	人数			1	1	2
6月	人数			1	1	2

※全員男子です

わが家の子ども達

R太：転職したのはいいのですが、非正規雇用で勤務日数も少なく、先行きが不安です。

W太：通信系の派遣会社に転職し、頑張っているのはいいのですが、大学進学準備はどうなったのでしょうか。

b男：職場の待遇に不満で辞めてみたものの、世間はそんなに甘くない。

c男：新天地を求めて、6月末に退居しました。

つぼみの家の在籍数(H28年各月1日現在)

年 齢		15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳以上
4月	人数				1	3	
5月	人数				1	2	
6月	人数				1	2	

※全員女子です

わが家の子ども達

C子：4月末に委託解除になりました。

L子：公私ともにいろいろありましたが、今の職場は、本人にも合っているようで、頑張っているようです。

M子：いつのまにかという感じで仕事も辞めていて、安定就労には課題あります。

N子：急なことでびっくりしましたが、新しい家庭を築くために退居の予定です。

4～6月のわだちの家とつぼみの家

(毎月/11 イオン黄色いレシートキャンペーン)

4/10 イオン黄色いレシートキャンペーンの贈呈式に川口が出席しました。

4/25 和歌山県児童養護施設協議会の総会～26 職員研修会に田中・阿部職員が参加。

4/25 全国自立援助ホーム協議会の総会～26 ホーム長研修会に川口が参加。

- 5/1 アフターケア事業として退所児童との交流会（バーベキュー）を実施。
- 5/19 有田川町の関係機関の方が視察に来られる。
- 5/24 加古川学園に退居児の面談に伺う。
- 5/31 里親支援センターなどでこの研修会に川口が参加。
- 6/2 和歌山県児童福祉施設連絡協議会の
～3 総会職員研修会に川口と田中・上西職員が参加。
- 6/7 全国自立援助ホーム協議会の調査研究委員会に川口が出席。
- 6/10 SST（ソーシャル・スキル・トレーニング）職員向け性教育を実施。
- 6/27 和歌山県児童養護施設協議会の常任委員会に川口が出席。

支援者の皆様方へ

自立援助ホーム「わだちの家」へのご寄附・ご支援を賜り、また援助基金にご協力をいただき誠にありがとうございます。

- 4月1日より6月30日までの寄附金
- 4月1日より6月30日までの寄附物品
岡本ご夫妻様、匿名希望様
- 4月1日より6月30日までの援助基金
前原壮行様、山本彰宏様、水城実様
匿名希望様

○援助基金会計報告（4/1～6/30）

収入の部

援助基金 16,000 円

受取利息 14 円

支出の部

自立生活・就労・資格取得支援金
0 円

振替手数料 260 円

6月末残高

326,629 円

※原則として、郵便局で受け取る払込金受領票の写しをもって領収書に代えさせていただきます。特に領収書の必要のある方、及び「匿名希望」の方は、その旨を通信欄にその都度お書き込み下さるよう、宜しくお願い申し上げます。

編集後記

世界が固唾をのんで見守るなかイギリスの国民投票が終わりました。ブリュッセルのEU官僚による少数支配を嫌い、近代ヨーロッパの基本理念である民主主義に基づいて多数決による問題解決を図った訳ですが、果たしてこれでよかったのでしょうか。

世界経済に与える負の影響は計り知れませんが、なにより誤った情報に踊らされたと後悔する英国人も多いと聞きます。

とはいえ、どのような結果になろうとも、その責任を誰かに押し付けることなく、国民すべてに等しく負わせることこそ民主主義の民主主義たるゆえんです。

自分の選択に責任をとれるのは自分しかないというのは、個人も国も関係ないのだと改めて感じさせられた出来事でした。

さて、これからも、自立援助ホームの様子はもちろん、本県の子どもたちを取り巻く状況などもこの「わだち通信」でお知らせして、皆様のご支援ご声援を賜り、子どもたちの自立への一助となるよう、なお一層精進いたしたいと思います。今後ともご指導くださいますようお願い申し上げます。

（援助基金のお願い）

わだちの家・つぼみの家では、皆様方にご理解いただき、入居初期の生活が軌道にのるまでのホーム費や資格取得など子どもたちの自立支援に役立てるための援助基金を募っています。ご賛同いただける方は、以下の口座へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

また、すでにご支援いただきました方々に、心からの感謝と御礼を申し上げます。

ゆうちょ銀行

口座記号番号 00920-5-299601

口座名義 自立援助ホームわだちの家

かわぐち

特 定 非 営 利 活 動 法 人 ト レ ス
(ソ ー シ ャ ル ・ サ ポ ー ト ・ ス ク ー ル)

わだち通信

VOL.42 2016/10/01

自立援助ホーム「わだちの家」
和歌山市善明寺13

TEL & FAX : 073-419-0888

自立援助ホーム「つぼみの家」
和歌山市狐島615-185

TEL & FAX : 073-496-4364



わだちの家 施設長
川口充紀

仲秋の候、ますます御健勝
のこととお慶び申し上げます。
平素より子ども達へのご理
解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、イタリア語でリナシメントといえ、
日本では文芸復興と訳されてきましたが、この
概念は文芸にとどまらず、もっと広義に使われ
るため、最近ではルネサンス（フランス語）と表
記するのが一般的なようです。

西ローマ帝国の滅亡により、ヨーロッパの諸
地域は分断され、かろうじてキリスト教会を中心
にまとまっていたが、一神教であるが故、
古代ギリシャやローマの文化は徹底的に排斥さ
れ、多くの書物や芸術作品が失われていました。
俗にいう中世の暗黒時代です。

では、失われたはずの古代の知識はどうや
って保存されていたのでしょうか。彫刻などは、一
部の心ある人たちがこっそりと隠し、後代に伝
えていたようですが、多くの貴重な書物は、イ
スラム教を信じる人たちの手によって次々とア
ラビア語に翻訳され継承されていったのです。

やがて、ヨーロッパがルネサンスを迎えると、
今度はアラビア語から西欧諸国の言語に翻訳さ
れ、ギリシャ・ローマの知の遺産はヨーロッパ
で復興されます。

現代では、イスラム教徒を文化的に劣るかの
ように錯覚している人がいますが、ルネサンス
前はあらゆる分野でイスラム圏が西欧より優れ
ていた事実を忘れてはいけません。

イスラム文明がなければ、ルネサンスはなく、
ひいては現代社会の基礎となった西欧文明も生
まれていなかったかもしれません。とはいえ、
キリスト教がなければイスラム教も存在しなかつ
たわけで、今の私たちがあるのは、これらの

出来事が数限りなく繋がりがあった結果であるこ
とは疑いのない事実です。

ルネサンスのような大げさな話でなくとも、
私たちの日常の暮らしにおいても同様です。

先に生まれた者たちが営々として築きあげて
きたものを、次代の子どもたちが受け取って、
さらに豊かなものへと育て、その次の世代へと
バトンを渡す。時々、うまくつなぎ損ねたとき
は、イスラム文化のように、別の誰かがそっと
バトンを預かり、時が来たら、手渡せばいいの
です。「自立援助ホーム」とは、そんな場所では
ないかと、私は考えているのです。

つぼみの家 職員
尾崎初美

最近私が嬉しく思ったことのひとつに、3月
に退居した子どもが遊びに来てくれたことがあ
ります。まるで、嫁いだ娘が実家に帰ってきた
様な、そんなワクワクした気持ちで迎えました。

彼女が、「これお土産。食べて。」と差し出し
たスーパーの袋には、他児や職員の好みに合わ
せたジュースやアイスクリーム、お菓子等がど
っさり。

つぼみで生活していた頃、家出をしたり問題
行動を起こしたり暴言を吐いてみたりといった
ことも振り返ってみれば、今は懐かしく笑い話
となっています。

「やっぱり、つぼみは落ち着くからいいわ。」
「ご飯が美味しかったからまた食べたい。」「ま
た遊びに来るから。」といて帰っていく姿をみ
て、これからも子どもたちにとって実家の様な
役割を果たしていけたらと改めて思いました。

お釈尊様の言葉に、どんな交わり集団の中に
居るとしても、自分1人で歩く覚悟を持ちなさ
い。まるで1本角（ツノ）が立つサイのように
1人で歩みなさいとあります。人は、何か心配
事や不安や不満心がある時は、他人との比較を

していないか振り返ることによって、自分が何をすべきか、どう思うべきかが見えてきますとお釈尊様はおっしゃっています。人は、こうなれば安心が出来る、アレが叶えば安心する、結婚すれば、金持ちになれば、などなど思うものですが、他人と比較して自分の人生を決めつけず、自分自身を信じて大切にし、社会の中で、楽しんでいってほしいと思います。これからも子ども達に寄り添いながら、自立の手助けができればと思います。

わだちの家
職員 藤田龍士

先日、異業種交流会で出会った方の中に親鸞聖人の教え(浄土真宗)を広められている女性がいらっしゃったのですが、その方にお会いして衝撃を受けた言葉があります。

それは、「平生業成(へいぜいごうじょう)」という言葉です。浄土真宗を開いた親鸞聖人の教えを一言で表された言葉でご存知の方もいらっしゃると思いますが、私自身は初めて聞く言葉でした。「平生」とは今私たちが生きているこの世界のことで、「業」とは人生の大事業のことをいうそうですが、決して「大会社を設立する」や「後世まで残る大プロジェクトを行う」ではなく、「自分自身の人生の目的(夢)」のことだそうです。「成」は言葉通りその目的を達成することですが、私自身はこれまで「人生の目的について深く考えたことがなく、唯々何も考えず生きてきたんだな。」と思います。そのような感慨とともに、わだちの家の子どもたちはどうなんだろうかと感じました。「本当に自分の人生の目的、夢に向かって歩んでいるのだろうか？」また、「目的や夢のない子に対して、そのことを察知して話を聞いているのだろうか？」、「それぞれに対するアプローチはどうすればいいのか？」と自分への課題が山積みです。

しかし、自分自身が今まで考えもしなかったことを子どもたちに話せるわけもなく、試行錯誤の状態です。その中でも、子どもたち自身が何か目的を見つける為にもがいていたり悩んでいる姿を見て、私も自分自身をもう一度見つめ直し、子どもたちと共に成長しながら「人生の

目的」を見つけて行きたいと思っています。

わだちの家の在籍数(Ｈ28年各月1日現在)

年 齢		15歳	16歳	17歳	18歳	19歳
7月	人数			1	1	1
8月	人数			1	1	1
9月	人数			1		1

※全員男子です

わが家の子ども達

R太：周囲の支援を得て、一人暮らしをするべく退居していききました。

W太：貯金も徐々に増え、仕事も真面目に取り組んでいます。自立に向けて、自分なりに考えているようです。

b男：寮付の新しい職場が決まり、9月末に退居しました。

つぼみの家の在籍数(Ｈ28年各月1日現在)

年 齢		15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳以上
7月	人数				1	2	
8月	人数					2	
9月	人数					1	

※全員女子です

わが家の子ども達

L子：仕事も安定し、きょうだい間の行き来もあって、安定しているように見えます。来春には二十歳になるので、そろそろ自立の準備にかかります。

M子：就労自立にはまだ早すぎたのか、家族のもとに帰っていききました。

N子：新しい家族が出来て、7月に退居しました。

7～9月のわだちの家とつぼみの家

(毎月/11 イオン黄色いレシートキャンペーン)

7/08 和歌山県児童養護施設協議会の職員親善バレーボール大会の運営協力。

7/15 和歌山県児童養護施設協議会の常任委員会に川口が参加。

8/07 和歌山県里親会の夏レクに川口・田中～08 が参加し、アフターケア事業について説明する。

- 8/10 SST (ソーシャル・スキル・トレーニング) 夏季
～11 一泊研修をダイワロイネットホテルで
実施する。
- 8/24 宮崎県から児童養護施設退所者等アフ
ターケア事業について研修に来られる。
- 9/06 加古川学園に退居児の面談に伺う。
- 9/08 三重県北勢児童相談所よりつぼみの家
に見学と入居の打診。
- 9/19 法人の理事会を開催し、事業の進捗につ
いて報告・協議する。
- 9/28 和歌山県児童養護施設協議会の常任委
員会に川口が参加。

支援者の皆様方へ

自立援助ホーム「わだちの家」へのご寄附・
ご支援を賜り、また援助基金にご協力をいただ
き誠にありがとうございます。

- 7月1日より9月30日までの寄附金
- 7月1日より9月30日までの寄附物品
フードバンク和歌山様、
(更生保護女性会の) 嶋倉様、
匿名希望様
- 7月1日より9月30日までの援助基金
水城実様、匿名希望様

○援助基金会計報告 (7/1～9/30)

収入の部

援助基金	1,000 円
受取利息	0 円

支出の部

自立生活・就労・資格取得支援金	0 円
振替手数料	130 円

9 月末残高

327,499 円

※原則として、郵便局で受け取る払込金受領票の写
しをもって領収書に代えさせていただきます。特に
領収書の必要のある方、及び「匿名希望」の方は、
その旨を通信欄にその都度お書き込み下さるよう、
宜しくお願い申し上げます。

編集後記

児童福祉法が改正され、社会的養護下の
子どもたちへの自立支援が重要であるとの
共通理解が進んでいるように思います。

一方で、支援を必要とする子どもたちの
質的な変化も気になります。いわゆる、や
んちゃな子が減って、心のパワーの少ない、
自分のことなのに他人事のように振舞う子
どもたちに出会うことが多くなってきてい
るように感じます。

自立援助ホームが大事にする「主体性の
保障」をしようにも、子ども自身の主体性
が育たなければ、支援が空回りするばかり
です。課題は山積していますが、出来な
かったことを嘆くよりは、これから出来るこ
とは何かを考え、微力を尽くせる人になり
たいものです。

さて、これからも、自立援助ホームの様
子はもちろん、本県の子どもたちを取り巻
く状況などもこの「わだち通信」でお知
らせて、皆様のご支援ご声援を賜り、子
どもたちの自立への一助となるよう、なお一
層精進いたしたいと思います。今後ともご
指導くださいますようお願い申し上げま
す。

(援助基金のお願い)

わだちの家・つぼみの家では、皆様方
にご理解いただき、入居初期の生活が軌道に
のるまでのホーム費や資格取得など子
どもたちの自立支援に役立てるための援助基金
を募っています。ご賛同いただける方は、
以下の口座へのご支援をよろしくお願い申
し上げます。

また、すでにご支援いただきました方々
に、心からの感謝と御礼を申し上げます。

ゆうちょ銀行

口座記号番号 00920-5-299601

口座名義 自立援助ホームわだちの家

かわぐち

特 定 非 営 利 活 動 法 人 ト レ ス
(ソ ー シ ャ ル ・ サ ポ ー ト ・ ス ク ー ル)

わだち通信

VOL.43 2017/01/01

自立援助ホーム「わだちの家」
和歌山市善明寺13

TEL & FAX : 073-419-0888

自立援助ホーム「つぼみの家」
和歌山市狐島615-185

TEL & FAX : 073-496-4364



わだちの家 施設長
川口充紀

あけましておめでとう
ございます。ますます御
健勝のこととお慶び申し
上げます。

平素より子ども達へ
のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、中国の思想家のひとり、老子の言葉に
「上善は水の如し」というのがあります。お酒
の銘柄にもなっているのでご存知の方も多いと
思います。

曰く、水は万物に恵みを与えながら、しなや
かに障害物を避けて流れていき、誰もが嫌がる
低い場所に落ち着きます。そのようなあり方を
人間にたとえると、謙虚で争いを好まない理想
の生き方に近づけると説いているようです。

一方で老子は、水は岩のような重いものでも
動かすことがあるし、山をも削ることがあり、
ちょっとした隙間に浸み込んでしまう変幻自在
なところもあると云っています

四角い器に入れば四角になり、円い器に入
れば円くなるという柔軟なあり方こそが、実
は世の中でもっとも貴重であり、弱くて柔らか
そうに見えるものに大きな力が潜んでいること
を「上善如水」と表現したのだと思います。

ところで、多くの子どもたちは、生まれ育つ
環境を選べません。それぞれ与えられた環境で、
状況に応じて成長するのです。まさに「水の如
く」柔軟な存在だと思います。それゆえ、時
には社会のもっとも劣悪な環境に落ち込んでしま
いがちなのもまた、子どもたちだといえます。
なぜなら、水は低いところに落ちるものだから
です。

私たち大人には、次世代の担い手として、子
どもたちを健全に育てる責務がありますが、社

会全体でその責任を果たそうという意識が高ま
っているとはいえないのが現状です。

殊に、長い時間をかければ岩をも穿つ水と違
って、自立援助ホームにやって来る子どもたち
には、自立のための準備をする時間が足りませ
ん。失敗と成功を繰り返しながら、例えば、自
分の嫌がることは他人にしないといった生き方
のコツを覚え、豊かな社会人生活を送るため
にも、ホームでの暮らしが少しでも充実するよう
に努めたいと思っています。

つぼみの家 ホーム長
平山弥生

我が家には、サクラと呼ぶ10年以上、同居
している愛猫がいます。サクラは人間には愛想
が良いのですが、近くに居る猫の気配だけで獣
のような声で威嚇し続け、他の猫を決して寄せ
付けない、協調性のない警戒心の強い猫なの
です。

サクラには友達がいませんでした。そんなサ
クラに唯一威嚇をしない猫が現れました。野良
のクロです。クロはサクラとは仲良しですが、
人間には攻撃的です。我が家へは皆勤賞のよう
に朝晩訪れ食事を要求します。しかし近くに寄
っていくと猫パンチが飛びます、我が家の住人
はひっかき傷を受けながら、クロに食事を与え
ていました。そのクロが先日、夜、食事も摂ら
ず、我が家の縁側に横たわっていました。近く
に寄ると猫パンチが飛びそうで怖くて、寄れず
に離れて見ていると5分程で何処かに行っ
てしまいました。それが、生きているクロを見た
最後でした。3日後、我が家の玄関近くで、ま
だ暖かく、柔らかい、しかし動かないクロを見
つけたのです。あの時、クロは最後のお別れに
来ていたのかもしれない、なのに自分の対応
は・・・言葉さえかけず冷たいものでした。ク
ロもまたサクラ同様私たちの家族なのに・・・後

悔の念が強く残り心が痛みます。やり直し出来ない事への自責の念、それが私の後悔なのです。

人生は一瞬一瞬の選択で決まります。たとえ一本道だとしても、進むべきか・退くべきか・立ち止まるべきかを決断します。今いる場所は、過去の無数の選択の結果で、小さな選択を繰り返し、また大きな決断の結果、今に至っています。どんな選択をしても未練は残り、後悔のない選択はないように、人生に正解もないのかもしれないかもしれません。

とはいえ、私の出会った子どもたちには、自分が選択した道を正解だと信じ、後悔せずに強く生きてほしいと願っています。もしも後悔する事があったとしても、その事が次に活かせる教訓となることを祈って。

わだちの家
職員 藤村里恵

皆さん、「我楽苦他人間」という言葉を、ご存知ですか。私も初めて知りましたが、文字通り「我（自分）は楽をして、他（人）を苦しめる人間」という意味です。残念ながら、このような人間は世間に数多く、皆さんも煮え湯を飲まされたことが、おありのことと思います。かく言う私も何度も嫌な思いをしてきました。

しかし、当の本人は自覚がないのですから厄介なものです。その度に自分はこうはなるまいと心得え、努力していかなければならないと思います。

ここ自立援助ホームの子ども達は、気立てが非常に優しく広い心を持って私達に接してくれます。それは、私の想像する以上にたく、苦しく、厳しい環境で育ち、心が痛みを知っているからではないかと思っています。

また、人を見る目も沈着冷静で、的確な判断を下す力を持っているようにみえます。男の子ですから多くは語りませんが、心の内を明かしてくれたり、夢を語り合ったり、ときにはつらい生い立ちを話してくれることもあります。

彼らが、ここを巣立っても、社会の荒波が待ち受けていることでしょう。それでも決して腐ることなく、自分に一生懸命力強く生きて、失敗しても後悔のない人生を歩んでほしい

と願っています。

わだちの家の在籍数（Ｈ２８年各月１日現在）

年 齢		15 歳	16 歳	17 歳	18 歳	19 歳
10月	人数					1
11月	人数					1
12月	人数					1

※全員男子です

わが家の子ども達

W太：二十歳を迎えるので、来年２月からは一人暮らし。自立生活へのラストスパートです。

X太：12月に、約２年ぶりに再入居。あらためて自立に向けた訓練が始まりました。

つぼみの家の在籍数（Ｈ２８年各月１日現在）

年 齢		15 歳	16 歳	17 歳	18 歳	19 歳	20 歳 以上
10月	人数					1	
11月	人数					2	
12月	人数	1			1	2	

※全員女子です

わが家の子ども達

L子：就労も生活も安定しています。自立のための準備をぼちぼち始めています。

O子：三重県から、10月に入居し、清掃のお仕事を頑張っています。

P子：滋賀県から、11月に入居し、スーパーの仕事を頑張っています。

Q子：京都府から、12月に入居し、食品関係の仕事を頑張っています。

10～12月のわだちの家とつぼみの家

(毎月/11 イオン黄色いレシートキャンペーン)

10/08 SST（ソーシャル・スキル・トレーニング）マナーコネクション講習を実施。

10/09 子どもの虐待防止協会のオレンジリボンイベントに川口・田中が参加。

10/20 全国自立援助ホーム協議会茨城大会～21に川口、田中・阿部職員が参加。

10/25 和歌山県児童養護施設協議会の常任委員会に川口が参加。

11/13 SST（ソーシャル・スキル・トレーニング）法律のお話講習を実施。

- 11/17 京都少年鑑別所に川口・平山が入居の
面談訪問。
- 11/19 人権フェスタの児童福祉関係 7 団体に
よる展示ブースに川口・田中が参加。
- 11/20 里親支援フォーラムに川口・田中が
出席。
- 11/07 児童福祉施設連絡協議会の県外研修に
～08 川口・田中が参加。
- 11/16 和歌山県児童養護施設協議会の常任委
員会に川口が参加。
- 11/17 SST (ソーシャル・スキル・トレーニング)
こころのお話講習を実施。

支援者の皆様方へ

自立援助ホーム「わだちの家」へのご寄附・
ご支援を賜り、また援助基金にご協力をいただ
き誠にありがとうございます。

- 10月1日より12月31日までの寄附金
白杉武志様
(お正月行事に活用させていただきました)
- 10月1日より12月31日までの寄附物品
フードバンク和歌山様、前原壮行様
更生保護女性連盟様、匿名希望様
- 10月1日より12月31日までの援助基金
山本彰宏様、前原壮行様、匿名希望様、
更生保護女性連盟様

○援助基金会計報告(10/1～12/31)

収入の部

援助基金 33,000 円

受取利息 0 円

支出の部

自立生活・就労・資格取得支援金
0 円

振替手数料 130 円

12 月末残高

360,369 円

※原則として、郵便局で受け取る払込金受領票の写
しをもって領収書に代えさせていただきます。特に
領収書の必要のある方、及び「匿名希望」の方は、
その旨を通信欄にその都度お書き込み下さるよう、
宜しくお願い申し上げます。

編集後記

昨年はイギリスのEU離脱やトランプ新
大統領の選出など、大方の事前予想を覆す
出来事が目立った年でした。

私たちの分野でも、児童福祉法の改正が
あり、条件付ながら 20 歳超 22 歳までの
自立支援の枠組みが出来つつあります。

昨年末の閣議で決定された社会的養護自
立支援事業(仮称)がやがて創設されれば、
22 歳の年度末まで引き続いて自立援助ホ
ームで暮らすことが出来るかもしれません。
一方で、未成年者と成人がともに暮ら
すことの課題が浮き彫りになる可能性もあ
ります。

私たちは、想定外の事態に右往左往する
ことのないように、今後のことをよく考え
ておかねばならないのかもしれないですね。

さて、これからも、自立援助ホームの様
子はもちろん、本県の子どもたちを取り巻
く状況などもこの「わだち通信」でお知ら
せして、皆様のご支援ご声援を賜り、子ど
もたちの自立への一助となるよう、なお一
層精進いたしたいと思います。今後ともご
指導くださいますようお願い申し上げます。

(援助基金のお願い)

わだちの家・つぼみの家では、皆様方
にご理解いただき、入居初期の生活が軌道に
のるまでのホーム費や資格取得など子ども
たちの自立支援に役立てるための援助基金
を募っています。ご賛同いただける方は、
以下の口座へのご支援をよろしくお願い申
し上げます。

また、すでにご支援いただきました方々
に、心からの感謝と御礼を申し上げます。

ゆうちょ銀行

口座記号番号 00920-5-299601

口座名義 自立援助ホームわだちの家

かわぐち